

## (有) 樹木センター桜田農場におじゃましました

釧路管内は、平均気温 6.7℃と北海道の中でも特に冷涼な地域であり、6月～8月に沿岸部で発生する霧のため日照時間は他地域と比較して少ないことから、花きの生産は多くありませんが、今回、その中でも、苗物と鉢物を生産している(有) 樹木センター桜田農場を紹介します。

(有) 樹木センター桜田農場は、釧路市山花に所在し、JR 釧路駅から車で 40 分、釧路空港からは車で 10 分のところにあります。



ペチュニアとマリーゴールド

### ■ 農場設立の経緯

(有) 樹木センター桜田農場は、もともと釧路市内にある生花店(株) 篠原園芸から始まっています。生花店を営む傍ら、店舗横にハウス5棟を建て、販売用の鉢物を生産していたそうです。ハウス周りに住宅が増え、ハウスの冬期暖房の騒音と敷地が手狭になったことから、平成9年に生産部門を(株) 篠原園芸から切り離し、子会社として(有) 樹木センター桜田農場を現在地に立ち上げました。

### ■ 消費者のニーズに応えた生産体制

農場では、ハウス 14 棟でパンジー、ペチュニア、マリーゴールドなどのポット苗を約 80,000 ポット、野菜苗を約 2,000 ポット、鉢物でクンシランを約 15,000 鉢、シクラメン等其他鉢花を約 2,000 鉢生産し、そのほとんどを篠原園芸にて販売しています。そのため、店舗で得られるお客さんのニーズ(種類、品種、色等)をそのまま生産に反映させられることや、短い納期での大量の注文にも応えることができる強みがあります。

また、テレビのニュースなどでおなじみの幣舞橋の花時計の苗も(有) 樹木センター桜田農場で作られたものが使われています。



1ヶ月後幣舞橋の花時計用として出荷されるベゴニア

### ■ 冷涼な気候だからこそそのポット苗の楽しみ方

筆者は、一昨年まで関東にいたこともあり、釧路の街に植えられたパンジーやベゴニアの株が大きくなることに疑問を持っていて、何か秘訣があるのではないかと質問をぶつけてみたところ、やはり温度と日照が足りないため大きくなるしないとのことでした。

しかし、気温が低いことから店舗で買った後も姿が乱れにくく、花壇に植えたときのきれいな状態を長く楽しめ、さらに、春先の苗物パンジー・ビオラと夏の苗物ペチュニア、マリーゴールドを1ヶ月程度同時に楽しめるという涼しい気候であるからこそその良さがあることも教えていただきました。



クンシラン（真ん中の列が1年目、  
左右の列が3～4年目）



出荷間近のクンシラン

## ■ クンシランの生産

現在、年間15,000鉢生産しているクンシランは主に札幌の市場に出荷していて、平成11年の東京～釧路間のカーフェリー航路の休止前は、関東圏にも出荷していました。

先代社長が25年前から栽培を始め、改良を重ねて現在は、「くしろだるま」の名称で販売しています。

クンシランは、出荷までに時間のかかる植物で、1年で2枚の葉しか出ません。こちらの農場では、種子から育成し、花芽が出て出荷できるようになるまでに6～7年かかり、さらに種子を採る親株になるには10年以上かかるそうです。気の遠くなる時間です。花は1ヶ月程度楽しめるそうです。

## ■ 今後の展望について

今年の1月に先代社長が亡くなり、今後については模索中とのことですが、「先代のよく言っていた『釧路で作ったいいものを、釧路だけでなく道東全部に広めていきたい』という遺志を引き継ぎ、これからも店舗でのお客様の声に応えるようこれからも努力していく」と熱く語っていただきました。

現在は、宿根草の生産販売について検討しており、試験栽培をして冬越しできるものをお客様に提供したいとのことでした。

（平成24年7月取材 釧路総合振興局農務課）